2023年
12月 みやま
第307号

病院理念
『患者さまの不安をとること』
当院の基本方針
「地域に根ざした安心できる医療」
「精神科医療の充実」
「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団光生会　平川病院
〔ホームページ〕http://www.hirakawa.or.jp/

左から　伊藤しょうこう都議、しやけ和夫さん、平川院長、西室真希市議

初宿（しやけ）和夫氏

石森孝志市長の後継者として期待される しやけ和夫 さんが来院されました

院長　平川 淳一

初宿（しやけ）和夫さんは、東京都で財務局、総務局、建設局、教育庁などを経て、最終的には財務局経理部長や、コロナ禍では福祉保険局健康危機管理担当局長を務めるなど、教育から財務、医療まで幅広く都政マンとして活躍されてきた方です。私達平川病院の「子供から大人まで、一生涯を通した精神科医療、障害者支援」の方針についても、しやけさんご自身の行政での経験を踏まえ、現場感覚で有意義な意見交換ができました。発達障害や精神疾患があっても地域で一緒に暮らせる町作りに、きっと力を貸していただける人材だと私は惚れ込みました。名前が珍しく、やや覚えにくい感じもしますが、ちょうどお歳暮で鮭（しゃけ）が店先に並んでいるのを思い出して、しやけさんの名前を覚えていただきたいと思います。良い人に巡り会えたことで、これからの八王子の将来が一段と楽しみになってきました。

面会時間変更のお知らせ

平　日　13:00 - 18:00
土日祝　10:00 - 12:00
13:00 - 18:00

【表紙】院長あいさつ　【P2】発達理解プログラムの活動紹介　【P3】精神障害にも対応した地域包括ケアシステム⑥　【P4】病棟たより（南２病棟）【P5】薬剤科から　【P6】クロザピンってどんな薬？　【P7】避難訓練を行いました　【P8】第77回国立総合病院医学会にシンポジストとして参加しました

発達理解プログラムの活動紹介
～経験を社会生活に活かしていく～

地域生活支援室より

地域生活支援科　公認心理師　丹原 佳折

前回、当院デイケアの発達理解プログラムについて紹介しましたが、今回はその中で行った「好きなもの紹介」についてお伝えします。このプログラムは、発達障害をお持ちの方、また特性をお持ちの方を対象に、①発達特性の理解を深めること、②同じような経験をしてきた人たちや似た特性をもつ人たちが仲間を作る機会をつくり、プログラムの活動自体が本人の居場所となることを目的として行っています。

「好きなもの紹介」は自分が好きなものや現在関心のあるものについて、メンバー同士紹介し、それぞれがどんなことに興味があるのかを共有するプログラム内容になっています。好きなものは物に限らず、好きな言葉や場所、気になっているもの、行ってみたい場所などどんなことでも構いません。

参加するメンバーは、自身の好きなものを持参して見せながら発表してもらう、あるいは、発表段階でスタッフと話して好きなものを確認しながら、話の中から出てきたものをその場で調べるなど、その方のできる範囲でお話いただく形式をとっています。また、発表が難しい場合は、他のメンバーの発表を聞く時間にしていただきます。

今回の紹介では、「食べること」、「リアルな動物コスプレ」、「漫画」などが発表されました。「食べること」については、実際に行ったお店を紹介していただき、みんなでお店をネット検索し、おすすめのメニューやお店の雰囲気などを共有しました。実際に画像を見ながら話すことで、その方の好きなものを全員で共有でき、お店に行ったときの出来事も思い出しやすく、他のメンバーからの発言も見られていました。

「リアルな動物コスプレ」は、実際に現物をお持ちいただき、身につけて発表していただきました。コスプレにも様々なジャンルがあり、身につけるものをプロのクリエイターが作ることもあるため、よりよいものを求める上で資金が必要であること、また、イベントについて話がありました。「漫画」に関する発表は、好きな漫画に共通するポイントや漫画の伏線等が深く考察されていることがよく伝わりました。

「好きなもの紹介」を通し、メンバー間でのコミュニケーションが自然に生まれ、また他者に分かってもらえる経験は、今後の社会生活で人間関係を築く上で、本人にとってよい経験の一つになると考えられます。

このようにプログラムを通して、社会生活に向けた準備となるようスタッフも努めていきたいと思います。

精神障害にも対応した地域包括ケアシステム⑥

グループホーム美山ヒルズ　世話人　廣井 亮

八王子市には保健・医療・福祉の実務に携わる様々な団体が意見交換を行う場として、八王子市地域精神保健医療福祉実務者連絡会があります。そして、その会議に「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム（以下「にも包括」）」の具体的提案を行うため、「にも包括ワーキンググループ」を立ち上げたことは、「みやま」10月号に書かせていただきました。今回は、その中での検討内容について書かせていただこうと思います。

「にも包括ワーキンググループ」は令和5年3月、4月、6月、9月と4回開催されました。実務者連絡会委員のなかの数名が参加しています。

「にも包括」のポータルサイトには、構築のための資料として現在の取り組みや課題等を整理するアセスメントシートがあり、そのシートを使って構成要素ごとに強みや課題を整理していきました（資料1）。八王子市においては社会資源（病院や施設）が数として豊富であることや、前号でもお伝えしたような事業を市が展開している強みがあると考えられる一方で、その事業や社会資源間での連携が十分ではない課題が見えてきました。

例えば、保健所が行っている早期訪問事業では精神科医療・福祉に対しては働きかけていけるものの、高齢者問題への対応や支援体制整備については苦手です。また、福祉政策課が行っている重層的支援体制整備事業（はちまるサポート等）では相談の多くに精神障害への対応が含まれることがあるものの、医療的相談に対してのアプローチが苦手で、対応に苦慮することが多いそうです。

八王子市はエリアがとても広いため、今ある資源を活かしつつ、それらの制度や機関の「つなぎ」をどこが、どうやっていくのかを検討しています。

令和５年度　にも包括ワーキンググループ意見まとめ　（資料１）

「にも包括」の構成要素における強みと課題について

構成要素	強み	課題
地域精神保健及び障害福祉	○はちまるサポートセンターがある（市内に12か所） ○障害福祉サービス事業所が多い ○市内のPSWの連絡会がある	○市民が最初にどこに相談に行けばいいかわからない ○障害福祉サービス事業所は多いが、連携が十分にできていない
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムにおける精神医療	○精神科クリニック（34か所）、病院が多い（16病院）	○福祉分野で医療の視点が足りていない ○病院と地域で精神科医療や地域での生活についてのイメージが異なる
住まいの確保と居住支援の充実、居住支援関係者との連携	○市内広範囲にグループホームがある ○生保基準の賃貸が多い（5万円以下）	○精神疾患があると賃貸契約が困難 ○滞在型のグループホームが少ない
つながりのある地域づくりと社会参加の推進	○滝山会の取り組み（医療・福祉の連携） ○はちまるの地区ごとのネットワークづくり	○地域によって社会資源にばらつきがある ○生活面の小さな困りごとをサポートしてくれる人材が少ない
当事者・ピアサポーター	○ピアサポーターが訪問看護や病院や福祉事業所と連携して活動している	○ボランティア希望の当事者は多いが、つなぎ先がわからない
精神障害を有する方等の家族	○家族会の活動（講演会等）がある	○家族の高齢化（8050問題） ○家族に対する長期的な支援が少ない
人材育成	○人材が豊富 ○検討会や研修を各事業所で行っている	○事業所間での情報共有の場が少ない ○継続的に積み重ねができる研修会の場が少ない

南2病棟の看護学生受け入れ

南2病棟　主任　丸山 千裕

南2病棟では、看護実習生の受け入れを行っています。

実習受け入れに際し、他部署の取り組みをまねてみたところ、意外な発見がありました。

参考にしたのは、南3で実施されているウェルカムボードです。南3ほど大きくはないのですが、スタッフみんなの手作りです。ここに、実習にきてくれた学生の名前を掲示し、関わったスタッフがそれぞれ見て発見したところ、素敵な姿などを付箋に書いてメッセージを残していきます。そして、最後に患者様にもコメントを頂き、学生へ実習最終日にお渡しさせて頂いています。学生の嬉しそうな表情に、私達指導者やスタッフも嬉しい気持ちに包まれます。

ある時、ウェルカムボードを囲みながら、なにやら楽しそうにしている学生たちがいました。学生が帰ったあとに付箋でコメントを貼り付けようとしたところ、学生がまだ何も書いていないスペースに、とても小さい字で「明日もよろしくお願いします！」とコメントを残してくれていました。私が学生の立場なら、忙しそうな看護師の姿をみて、声をかけづらく萎縮してしまいそうですが、こんなところにコメントが書いてあるなんて。いたずら書きを発見したこどものような気持ちでした。指導者も癒され、疲れも吹き飛びます。

学生のちょっとした機転と、遊び心をくすぐる、そんなウェルカムボードになっているのかもしれないと、次回実習に来る学生の反応が楽しみになっています。

また、新たに鈴木Nsが実習指導者に加わりました。精神科看護において、人をみる視点に鋭く、患者様の細かなニーズに気付ける素敵な看護師です。10月11月と、既に学生担当につき、細かく丁寧に指導して下さっています。他にも指導を担って下さっている看護師もいます。スタッフ皆で学生の臨床学習を支援できる体制が着実に進んでいると思いますし、何より、指導する側も学生も、きっと楽しい思い出が出来ている、そんな実感があります。

医薬品の不足に対して今できること

薬剤科から

薬剤科　科長　大塚 晃弘

皆さんは昨今の医薬品供給不足をどれくらい身近に感じているでしょうか？最近では コロナ感染やインフルエンザ感染が広がる中、咳止めや解熱剤の多くの製品で供給が間に合ってないというニュースも報道されています。私自身も服用しているアレルギーの薬や漢方薬が手に入らないという影響を受けました。これらの医薬品の不足は、内科薬だけに限ったことではなく、精神科領域の薬品でも起きています。2021年には抗てんかん薬の中核となるカルバマゼピンやバルプロ酸の不足で日本てんかん学会が厚生労働省や医薬品メーカーに状況の改善を要望する提言を出す事態となりました。

現在、精神科で一番問題となっているのは、パーキンソン病治療薬の一種で、抗精神病薬の副作用止めとしても使われる薬の一部です。これらの薬は使用量が多いにも関わらず、製造しているメーカーが少なく、1つの製薬メーカーが製造出来なくなることで影響が非常に大きくなっております。そのため、調剤薬局から薬が手に入らないといった相談が今でも多く寄せられています。このような事態に対応するために、薬剤科では、入院している間にこれらの薬を必要最小限に抑えることができるように使用量の調査や医局との情報共有を行っています。それでも使用量をゼロにすることはできない医薬品です。患者さんが退院した後も何の心配もない日常生活を送ることができるよう、スタッフがワンチームとなってこの事態を乗り越えて行きたいと思います。

クロザピンってどんな薬？

医療の質向上促進委員会　東4病棟　看護師　金井 秀之

統合失調症は継続的な服薬が必要な病気であり、その治療の中心になるのが「抗精神病薬」です。抗精神病薬は複数ありますが、薬の効果が十分に得られない難治例もあります。そうした難治性統合失調症に対しても効果が期待できる「切り札」的な薬として「クロザピン」という薬があります。1969年から各国で使用されましたが、重篤な副作用で死亡するケースが複数報告されるようになり、多くの国で開発・販売が一時中断されました。その後も一部の国では使用が継続されたのですが、クロザピン以外の抗精神病薬では効果が不十分な場合でも高い治療効果を発揮するケースが多くみられました。そのため「治療抵抗性（難治性）統合失調症」に適応を絞り開発が再開されました。1989年に米英で再承認を受け、日本では2009年に承認を受けました。当院では2013年からクロザピンを採用しています。

Q：希望したら処方してもらえますか？

A：重篤な副作用が出ることがあるため、処方開始の際は入院が必要となります。本人・家族・医師で相談し、メリットが大きいと判断できる場合にのみ処方できます。クロザピンを処方する医師には学会専門医もしくはそれと同等以上の知識・経験を有することが求められ、かつ指定の講義を受講して試験に合格する必要があります。当院では6名の医師がクロザピン処方の資格を有しています。

Q：重篤な副作用とはどういったものですか？

A：細菌などの病原体から体を守る働きをする白血球の一種（顆粒球）が著しく減少してしまう「顆粒球減少症」というものです。これが起きてしまうと、正常では問題にならないような軽微な細菌感染でも重症感染症に至り、生命の危機に繋がることがあります。

Q：副作用が出た場合にはどうするのですか？

A：精神科主治医と当院内科医で相談して対応します。結果的にクロザピンの服用を中止せざるを得ないこともあります。重症感染症など高度医療が必要な場合には連携病院（青梅市立病院）血液内科専門医の指示を仰ぎ、時には緊急転院となることもあります。

当院入院・通院患者さん合わせて33名の方がクロザリルを服用されています。数十年当院に入院されていた患者さんが、病状改善して退院・社会復帰されたケースもあります。クロザピンは患者さんにとっての「希望の薬」となり得る。そのことを紹介しどなたかのお役に立てることがあれば幸いです。

避難訓練を行いました

災害対策委員会　栄養科　主任　田中 康之

令和5年10月30日に避難訓練として、①各病棟、部署からの避難経路及び一時避難場所の確認、②避難の際に想定される障害物等（階段、段差）を模擬的に設置しての避難誘導訓練を行いました。

訓練の様子

より、実践的な訓練とするために、車いすに40リットルの水タンクを乗せた状態での階段昇降訓練と、簡易ストレッチャーによる避難誘導訓練を行いました。

限られた時間ではありましたが、各部署、病棟から合計50名以上が参加し、職員の関心の高さが窺え、実りある訓練となりました。

第77回国立総合病院医学会にシンポジストとして参加しました

リハビリテーション科　科長　理学療法士　濱田 賢二

この度、10月20・21日に広島県で開催された第77回国立総合病院医学会にシンポジストとして参加しました。この学会は一般演題が約1700題、シンポジウムは40題あり、参加者は約6500人を超えるというとても大きな学会です。

私が参加したシンポジウムのテーマは『精神科領域における身体的リハビリテーションの現状と課題』で、当院に見学に来たこともある肥前精神医療センターの橋本先生が座長を務め、私を含め4名のシンポジストがそれぞれのテーマに沿って話をしました。精神疾患をもつ患者様が身体疾患を有した場合、双方に対応した施設がなく、なかなか転院先が見つからない現状があります。通常の精神科病院では精神科作業療法はあっても身体リハは無いのが普通です。当院で勤務していると当たり前に感じてしまいますが、当院の様に精神科病院でありながら、大きなリハ室と、25名のスタッフで専門的なリハビリを行える病院は国内をみてもとても珍しいのです。私は今回、平川病院のリハビリの現状などを中心にお話させて頂きましたが、発表後にも複数の方から内容に対する質問もありました。こういったシンポジウムが開かれたことも含め、この領域に対する世間の関心の高さを実感出来る良い機会となりました。

今回の経験を活かし、また今後の業務に励んで参りたいと思います。

八王子市民のための発達障害支援
総合ポータルサイト
子どもから大人まで八王子市民が発達障害の支援サービス情報を
包括的に取得できるサイトができました！
アクセスはこちらから
http://hachioji-hattatsu.jp/

編集後記

観測史上最も暑かった夏・・・11月7日（都内）の27.5度も100何年ぶりの記録更新とのこと。何年ぶりと言えば阪神の38年ぶり2度目の日本一！　関西人の喜びは一入（ひとしお）でないと思います。今年は個人的に10年ぶりとか20年ぶりとか嬉しい出来事がありました。これから38年後ですか・・・人生は意外に短いようです。今年も残り僅かですね。やり残したことがないよう頑張りましょう。

医療法人社団光生会 平川病院
東京都八王子市美山町１０７６
電 話 ０４２－６５１－３１３１
FAX ０４２－６５１－３１３３
編集　平川病院　広報委員会
ご意見ご感想はこちらへお願いします
kouhou@hhsp1966.jp
HIRAKAWA HOSPITAL